

オプス・デイ、新日本の地域代理

オプス・デイ属人区長フェルナンド・オカリス神父は、日本の地域代理としてラモン・ロペス神父を任命した。

2017/03/20

2017年2月13日付で、オプス・デイ属人区長フェルナンド・オカリス神父は、ラモン・ロペス神父を日本の地域代理に任命した。（前任者は新田壮一郎神父）

オプス・デイの統治は、教皇から任命された属人区長が行う。その実行を効果的に行うため、世界に散在するオプス・デイの各地域に代理が任命される。地域代理の仕事は、男子地域委員会と女子地域委員会によってサポートされる。

ラモン・ロペス神父略歴

- 1952年、スペイン生まれ。
- 1975年、マドリード自治大学医学部卒業。
- 1975年～1983年、来日し、セイドー外国語学院（兵庫県芦屋市）で語学教師を務める一方、セイドー文化センターにおける青少年向け活動に携わる。
- 1983年～1986年、ローマで神学を修め、司祭叙階を受ける。
- 1992年、教皇庁立聖十字架大学において哲学博士号取得。論文は、「体外受精技術と教理省

指の指針『Donum vitae』について」。

- 1986年～1990年、吉田学生センター（京都市）と精道学園（長崎市）にて指導司祭を務める。
- 1990年～2013年、フィリピンと香港で、司牧に取り組んだ。
- 2013年、再来日。オプス・デイ中央委員会の地域代表委員を務める。
- 2017年、日本地域代理に就任。

.....